
「魔法」のない世界 青春研究会の日常

犀川 匠

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

「魔法」のない世界 青春研究会の日常

【Zコード】

Z0066Z

【作者名】

犀川 匠

【あらすじ】

少しハイテクな街のちょっと賑やかな学園。そこにできた過激(?)

な部活。部活でりながら会とつけるあたりどうこう見だ? と思うも渋々入部した主人公。その他の部活や委員会、果ては生徒会を巻き込みながら部活動(遊び)をしていく。

「……こんな感じ?」

「……まあ、そんな感じだ。他にも播磨だつたりボコボコにしたり

……色々あつたが、それはそれだ

「……結局、これ何に使うの？」

「……わあ？」

えつと、こんな感じでコメテイー中心で、異能的なアクションとかとマシン的な戦闘だったり……欲張り気味で展開していきます。楽しんでいただければ幸いです。それでは

青春研究会（前書き）

第一話は第一話の時点よりもかなり先です。プロローグでありながら
エピローグです。

今日最後の授業が終了し、俺は家で勉強する分だけの教材をリュックに詰め、教室から出る。

教室からなら無意識でも辿り着けるほどには行き来した道。歩くたびに揺れるリュックを気にしながら歩く。

そういえば、このリュックはギコから「紐緩くしない」とダメにさよ！」と言つてきて、渋々緩くしたんだつたな。

ギコよ、走るときに当たつて痛いだよこれ。直していい？

……あ。確かにギコにそう言われた口つて、部室ができた日だったような……。

考え事をしながら、旧校舎の1階廊下を歩く。部室や倉庫の扉が左の視界を流れていく。そして、奇妙な扉が目に留まる。

ああ、そうか。こっちの部室だつたな。

そこには、所狭しとバカでかく文字が書かれている。それも毛筆。さらに達筆。芸術に疎い俺でも「うまい」と分かる。ただ残念なことに、書く場所と言葉がおかしい。芸術に疎い俺でも「バカだ」と分かる。

これは俺の所属する部活（会？）だ。

言つておぐが、俺は入りたくて入つたんぢやない。ここ大事。

そして俺はこの部室をスルーして、さらに奥へ進む。

この部屋も、最初はドアに書いてある通りの部室だつた。だが、この部室の両隣の部室の方々から苦情が寄せられ、一番端の部屋に移動した。苦情の内容は色々だが……まあ軽いテロ行為があつたのだ。

俺が一度、「このドアの字、消さないのか?」と聞いてみたところ、この字を書いた張本人、モミジいわく「トラップですよ、トラップ」らしい。まだテロ行為を続けるのか。誰を罠に掛けるつもりだ、誰を。

そして一番奥の部屋、旧校長室に辿り着いた。

最初、俺たちの部室が校長室と聞いた時は驚いたが、どうやら譲り受けたのではないらしい。そう、勝ち取つたのだ。ホント、どんな汚い手を使つた事やら……。

隣の部屋は空き部屋になつていて、それもここが選ばれた一つの要因だらう。公共の福祉つてやつだ。

……まあ、その部屋はレイナがピッキングして、俺らの物置になつてゐるが……、公共の福祉はないな、うん。

今更だが、俺はこっちで合つていたのだろうか。

もつと普通の学園生活でもよかつたのではないかだろうか。

俺は目立ちたがり屋ではない。それなのに今となつては学園で俺の名前を知らない人はいない。有名人と言えば聞こえがいいが、結

「畠田立つているだけじゃ、ちに利益はない。強いて言えば、疲れといふ不利益が生じる。」

「その原因の一端として、この部活だ。第一、名前 자체が畠田立ちまくつだ。こんな部活、この学園に存在していいのか？」

「……作ったのは俺たちだけだなつ！ チクシヨウ……。」

「まあ、作らなければよかつたとは言わないが、正しかつたとも言いいづらい。」

「もちろん作るうと、言い出したのは俺じゃない。『部活を作るのは、オレの夢だつたんだ……』と、気持ち悪い顔で言いだしたのはレンタで、同じクラスのギコが便乗。シユウマは『面白そづじやないか』と俺とカギハラを誘い、最終的にカギハラが根負けして俺も渋々みたひな流れだつた。」

「まあ確かに面白い。」

「だが、やつは過ぎだ。」

「（ガチャ）」
「おう。やつと来たか。遅刻した奴はこれが終わつてからだぞ」
「お前等早すぎるだろ……。そしてお前はゲームするキャラだつたのか」
「まあシユウマはキャラがブレまくるのがキャラだからね～。おやつた6キタ！」
「ていうかギコ、お前がこのゲームもつてきたのか？……いや、まあいいけどや……。お前6だと赤いマスだぞ」

「え！ ウソマジ！？」
「うわー、このタイミングでか

「チキンカレーだ」

「よっしゃ！ ディスティニー・チキンカ つて、流石に気付く

「きたぞ」 チイ おしし て おしレンタ なんかミサイルが飛んで

「はあ？ わつきから後ろで何言ってるてえええーー？」

なかつたけー。ムフフ」

倍にして返してくれるわ！」

「う前がいい。おまかせだよ。」

「たすがにえげつないな、モモジは。ホント最初のキャラはどうへ

「行つた事やら……」「えい。ム最刃がじやうらぬこねいひじがハシニ

「 そ う か 、 な お の 事 ひ ど い な 」

「お前達は元」といつたのがシロカマ!!

「……ちわーっス。遅くなりましたー。おやすみなさい」

「おレ、レイカ……」で寝るなよお前授業中も寝てたたか」「ボクの平均睡眠時間 なめないでくさー

何を誇らしげに

「じゃあ寝ますんで、なんか用事あつたら起こしてください。てい
うか、用事があるとき以外は起こさずにいただければ幸いッス」
「ハイハイ。いつも通り、部活終了まで用事ないとしつぞ」
「ありがたや。」。カー

「…………」

「はい。『ホール』

「つおおー。負けたーー！」

「いやレンタロウさんは最下位でしょー。そういうのは追いつけそうな人が言つものですよ」

「お前のせいで最下位なんだよ、ちくしょー！」

「流石は才色兼備腹黒娘……でもこいつちも負けてられないんだよー。最後のミニゲームで逆転して見せるー！」

「右に同じく」

「右に同じくー！」

「いや、お前の右に誰もいないだろ。強いて言えば、初代校長がいるが」

「嘘ー？ じつこのつて相手から見るんじゃないのかー？ そしてなんで俺が肖像画と同じくなつてんだよー！」

「髪の薄さとか」

「ハゲてねえよー。フツサフサだわー！」

「あなたの場合。知識の薄さじやないかしら」

「お前はさつきから一言多いー！」

「ゴー ルー！」

「ゴー ル」

「えー？ 嘘ー？ みんな早つー！」

「お前がモタモタしそぎなんだよー、つたぐー！」

「いや、楽しいんだけどさ。

「……なあカギハラ。なんか喋らないのか？」

「……喋ってるんだけど……、みんな賑やかで……」

「いや、お前の声が小さいだけだと思つが……、そういうえばお前、

ひゅつかつ2位だな「

「……うん。田立とうと思つて……。ダメ?」

「いやダメじゃな『い』が……、なんか田立つベクトルがおかしい気が……、まあこいいか。よし……レンタ、代われ

「はあ!? ちゅつと待つよ。『コントローラー』まだ一つ残つてんだろ!」

「おーい、起きあつれイナ! 出番だ!」

「待つてました!」

「なんで!? なんで今起つた!?」

「うるわこづけ、最下位

「あう……

「よつしゃ

「……チナミ君……。なんか。レンタロウ君、可哀想だよ……。ほ

「う……」

「ずーん

「……確かに。口で『ずーん』つて言つたことはないわよ、確かに可哀想だ

「フツフツフ……、実はね……レンタよ……」

「! な、なんだ!?」

「あ。明るくなつた

「……なつましたね……」

「もう一つ! コントローラーを用意していろのだよ。」

「な、なんだつて……! ナイスだ! コウ!」

「……でもコウ、接続するとこが六つしかな『い』ぞ

「そりゃもひるん」

「え? ……じゅあ……」

「コントローラーあつても意味ないね!」

「上げて落とされたああ!」

「……まあ実は接続端やすやつも買つてきたんだけどね……」

「あ、上げて落とされて持ち上げられた! やべえ、ひゅつと泣き

「ううだー。」

「じゅあみんなでやつますかー。」

「おひー」

「ええー」

「よつしゅー。」

「アスナ」

「……うん」

「ああ」

……まあいいか、今は。

青春研究会（後書き）

ほぼ全部……て書つか全部「メモ」でました。

会話だけで地の文がないと誰が何を言っているか分かりづらいと思うのですが、できるだけ個性を出して、分けてみました。

今回は全員名前をカタカタにしました。後で漢字が出てきます。

もし面白くて、次も見ていただければ嬉しいです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0066z/>

「魔法」のない世界 青春研究会の日常

2011年11月30日16時55分発行